

令和元年度大阪府立西野田工科高等学校 定時制の課程 第3回学校運営協議会

□日 時：令和2年1月23日（木）18:30～20:00

□出席者：協議会委員6名、准校長、教頭、主査、生徒部長、教務部長、進路指導主事、記録担当者

□第一部：会長・准校長あいさつ

□第二部：協議

◆第2回授業アンケート結果について（教頭より説明）

- ・「令和元年度 第2回授業アンケート（11月実施）」について説明
- ・生徒が授業において、自ら取り組む内容の質問項目でポイントが下がった。（1回目との比較）その原因として、学年の後半は、各教科内容の専門性が高くなったため、生徒が難しさを感じていたためと考えられる。
- ・今年度、学校全体で授業改善に取り組んだ。他の教員の授業を見る機会を増やすなど、校内研修を充実させ、教員全体の共通理解を深めた。

◆令和元年度学校教育自己診断について（准校長より説明）

- ・生徒の「学校に行くのが楽しい」の肯定的な回答の割合が減少した。一方で、教員の「生徒は学校生活を楽しんでいる。」の肯定的な回答は増加している。1年生の回答が全校生徒の半分程度を占めるなか、今後、生徒への質問について、項目数や聞き方の検討が必要。

◆学校の状況報告【今年度の総括】（教務部・生徒部より説明）

- 【教務部】生徒数の推移、教務概要、出席率の推移など
- 【生徒部】生徒指導、特別活動、部活動、教育相談など
- 【進路部】進路状況（内定者等）、今後の取組みなど

◆学校経営計画及び学校評価について（准校長より説明）

- ・大きな変更はなく、これまでの取組みを継続して行う。学校教育自己診断での肯定的な回答の割合について、昨年度までと異なる傾向が出た項目の数値目標は、今年度の結果に合わせた目標値に修正している。

◇委員からの意見

- ・生徒の居場所づくりの成果が出席率の向上にあらわれているが、「学校が楽しい」という感覚とは、すこし隔たりがあるように感じられる。
- ・授業内容がわかりにくいことが、楽しさに繋がっていない原因ではないのか。
- ・学校教育自己診断は、生徒数が少ないため、前年度との比較よりも、各項目を検証する見方を重視するほうがよい。
- ・キャリア教育で、キャッシュレスが進む現状において、金銭教育、消費者教育が必要である。
- ・西クエや資格取得など、生徒の自己肯定感が高まるような取組みを充実してほしい。

◆まとめ

- 本年度の授業改善の取組みを活かし、少人数にあった授業展開ができるようアイデアを持ち寄り、少しでも生徒の学力向上につながるよう、教員間の繋がりをもっと強めていきたい。
- 学校が「生徒の居場所」となっているように感じている。様々な環境にある生徒の支援をこれからも引き続き取り組んでいきたい。
- 就職サポートの準備として、まず生徒の心の準備に対するサポートが必要である。